

非麻薬性鎮痛薬(経口)院内フォーミュラリ

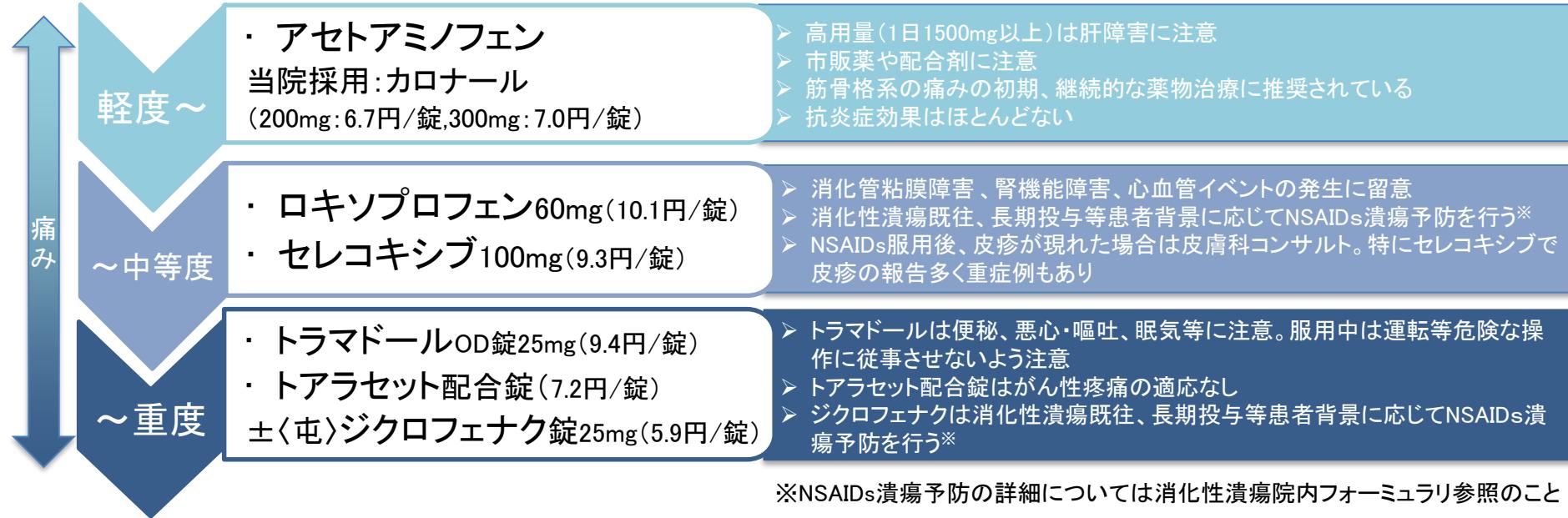
監修: 整形外科 吉田圭二部長
緩和ケア内科 安藤俊弘部長
作成: 薬剤部 村上侑美、森良江

NSAIDsは胃・腎・心の3つの“臓器毒性”に注意！

- ◆ 初回投与時は必ず患者背景確認
- ◆ NSAIDs定期投与の場合、潰瘍既往、長期投与等患者背景に応じてNSAIDs潰瘍予防を行う※
- ◆ 腎機能・水分状態の悪化リスクがある場合はアセトアミノフェンを第一選択

参考: 各IF、慢性疼痛ガイドライン、日本腎臓学会、日本フォーミュラリ学会モデルフォーミュラリ、日本内科学会雑誌第102巻第6号、腎機能別薬剤投与量POCKETBOOK第5版、妊娠と授乳、ペインクリニック治療指針改訂第5版

()2025年8月時点の薬価



※NSAIDs潰瘍予防の詳細については消化性潰瘍院内フォーミュラリ参照のこと

－患者背景による薬剤選択－

高齢者(75歳以上)

NSAIDsはPPIの併用
セレコキシブ

腎機能障害
(Cr: 30mL/min以下)
NSAIDs禁忌

アセトアミノフェン→減量、投与間隔の延長を考慮
トラマドール→低用量で投与

アスピリン
喘息・既往

NSAIDs服用歴確認
アセトアミノフェン(できれば300mg以下)
セレコキシブ*、トラマドール、
エトドラク(院外専)*、メロキシカム(院外専)*

消化性潰瘍既往

NSAIDsはPPIの併用
セレコキシブ+PPI*

小児

アセトアミノフェン

妊娠・授乳

アセトアミノフェン

心不全既往
NSAIDs原則回避

アセトアミノフェン

肝機能障害

アセトアミノフェンは少量から開始
NSAIDs(重篤な肝障害は禁忌)
トラマドール

AERDは選択性の高いCOX2阻害薬
はほぼ安全だが喘息不安定例で発作が生じることあり(*は添文禁忌)

非麻薬性鎮痛薬(経口)一覧

成分名 (商品名)	アセトアミノフェン (カロナール)	セレコキシブ (セレコックス)	ロキソプロフェンナトリウム (ロキソニン)	ジクロフェナクナトリウム (ボルタレン)	トラマドール (トラマール)	トラマドール塩酸塩 /アセトアミノフェン 配合錠 (トアラセット・ トラムセット)
即効性 T _{max} (単回投与)	200mg :0.46±0.19hr	100mg:2±1.4hr 200mg:2±0.9hr	60mg : 0.45±0.03hr	25mg : 2.72±0.55hr	25mg : 1.8±0.8hr	1錠 : 1.8±0.5~3.0hr
持続性 (T _{1/2})	200mg :2.36hr	100mg:7±3.2hr 200mg:8±3.5hr	60mg : 1.22±0.07hr	25mg : 1.2hr	25mg : 6.06±1.58hr	1錠 : 5.1±0.8hr
抗炎症作用	×	○	○	○	×	×
適応	○各種疾患及び症状における鎮痛 ○急性上気道炎 (急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む) の解熱・鎮痛 ○小児科領域における解熱・鎮痛	○関節リウマチ, 变形性関節症, 腰痛症, 肩関節周囲炎, 頸肩腕症候群, 齢の消炎・鎮痛 ○手術後, 外傷後並びに抜歯後の鎮痛・消炎 ○解熱・鎮痛 急性上気道炎 (急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む) の解熱・鎮痛	○関節リウマチ, 变形性関節症, 变形性脊椎症, 腰痛症, 頸肩腕症候群, 神経痛, 後陣痛, 骨盤内炎症, 月経困難症, 膀胱炎, 前眼部炎症, 齢の鎮痛・消炎 ○手術ならびに抜歯後の鎮痛・消炎 ○解熱・鎮痛 急性上気道炎 (急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む) の解熱・鎮痛	○関節リウマチ, 变形性関節症, 变形性脊椎症, 腰痛症, 頸肩腕症候群, 神経痛, 後陣痛, 骨盤内炎症, 月経困難症, 膀胱炎, 前眼部炎症, 齢の鎮痛・消炎 ○手術ならびに抜歯後の鎮痛・消炎 ○解熱・鎮痛 急性上気道炎 (急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む) の解熱・鎮痛	非オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記疾患における鎮痛: ○疼痛を伴う各種癌 ○慢性疼痛	非オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記疾患における鎮痛 ○非がん性慢性疼痛 ○抜歯後の疼痛
妊娠	多くの使用経験あり	×	×	×	×	×
禁忌 (過敏既往以外)	・重篤な肝障害	・アスピリン喘息 ・消化性潰瘍患者 ・重篤な肝機能障害 ・重篤な腎機能障害 ・重篤な心機能不全 ・冠動脈バイパス再建術の周術期患者 ・妊娠末期の女性	・消化性潰瘍患者 ・重篤な血液の異常のある患者 ・重篤な肝機能障害 ・重篤な腎機能障害 ・重篤な心機能不全 ・アスピリン喘息 ・妊娠後期の女性	・消化性潰瘍患者 ・重篤な血液の異常のある患者 ・重篤な肝機能障害 ・重篤な腎機能障害 ・重篤な心機能不全 ・アスピリン喘息 ・妊娠後期の女性	・12歳未満の小児 ・アルコール, 睡眠剤, 鎮痛剤, オピオイド鎮痛剤又は向精神薬による急性中毒患者 ・モノアミン酸化酵素阻害剤を投与中の患者, 又は投与中止後14日以内の患者 ・ナルメフェン塩酸塩水和物を投与中の患者又は投与中止後14日以内の患者 ・ナルメフェン塩酸塩水和物を投与中の患者又は投与中止後1週間以内の患者 ・治療により十分な管理がされていないてんかん患者 ・重篤な肝障害のある患者 (抜歯後の疼痛) ・アスピリン喘息 (非ステロイド性消炎鎮痛剤による喘息発作の誘発) 又はその既往歴のある患者	・12歳未満の小児 ・アルコール, 睡眠剤, 鎮痛剤, オピオイド鎮痛剤又は向精神薬による急性中毒患者 ・モノアミン酸化酵素阻害剤を投与中の患者, 又は投与中止後14日以内の患者 ・ナルメフェン塩酸塩水和物を投与中の患者又は投与中止後1週間以内の患者 ・治療により十分な管理がされていないてんかん患者 ・重篤な肝障害のある患者 (抜歯後の疼痛) ・アスピリン喘息 (非ステロイド性消炎鎮痛剤による喘息発作の誘発) 又はその既往歴のある患者
注意事項	・Ccr~55mL/min:1回500~600mgを1日3回毎食後、もしくは1日4回毎食後と寝る前または6時間毎 ・肝障害発現時は他剤への変更をご検討下さい	・血栓症のリスクの高い患者に対してセレコキシブを使用する際は、血栓症のリスクを考慮の上慎重に投与			・消化器系の副作用の頻度: 悪心(41.4%), 嘔吐(26.2%), 便秘(21.2%)が高い。	・消化器系の副作用の頻度: 悪心(41.4%), 嘔吐(26.2%), 便秘(21.2%)が高い。